

文 部 省 選 定

婦人のボランティア活動



施設で活躍するボランティアのお母さん

カラー／30分

¥ 170,000

企画

日本映画教育協会

対 象

婦人団体・社会教育指導者

用 途

婦人学級・PTA・自治会
社会教育指導講座

■ 製作のねらい

最近の多様化した社会の中で、自分をみつめ、社会を見つめようとする婦人の意欲が高まりつつある。そうした状況の中から婦人のボランティア活動は生まれてきた。

では婦人のボランティア活動とは何か？各都市で始った婦人のボランティア活動促進の実体などもふまえて、婦人たちが自分たちのできる身近なことから奉仕することによって、人生や社会に生きがいを見い出していく姿を記録的に描き、その活動の意義の理解と、実践化を図る。

■ 製作スタッフ

製作 村 山 英 治

大 西 雅 夫

脚本 堀 内 甲
演出

撮影 村 山 和 雄

編集 沼 崎 梅 子

解説 杉 田 郁 子

製 作

桜 映 画 社

東京都新宿区西新宿 1 - 22 - 1

TEL 03 (342) 5 7 6 8 〒160

配 給

■ 内 容

近頃、家庭生活の電化などに伴い、主婦の余暇時間が増え、社会奉仕活動に「生きがい」を見出す婦人が増えてきました。

宮前子供会の水野しげさんもそのひとり。この子供会には、百人近い子どもが参加しています。その子供たちの相談相手になってやるのが水野さんを中心とした主婦たちの育成会です。子供会をどう世話していくか、そして、子供について困ったことをみんなで考え、公德心のある社会人に育てようとする主婦たちの集りです。

朝のラジオ体操、夏休みのキャンプファイヤー……。その中で子供たちは、自分の町を愛する気持や協力を培ってゆきます。

子供は自分の子か、社会の子か……とまで、育成会的主婦たちは考え始めていると言います。

宮前育成会のように、奉仕活動をしたいという婦人は多く、そうした婦人たちを対象に全国の主要な都市で、婦人ボランティアの講習会が毎年開かれます。

名古屋市ではボランティアを社会奉仕活動ととらえて、心身障害児の施設の手伝い、盲人のための点訳奉仕、病院への協力と、三つのコースにしました。

心障児ボランティアコースを修了した婦人たちは自主グループをつくり、心身障害児施設のみどり学園で実践にとりくみはじめました。婦人たちは、子供たちに接するうちに、言葉が通い合わなくても心の通い合えた喜びに「生きがい」を感じ始めました。

点訳グループの婦人たちも、自主グループを作って、目の不自由な人たちのために点訳を始めました。一字一字をうつ点訳は、自分との闘いだと言います。しかし、自分のうった点字の本が図書館の書棚に並び、盲人の指先にふれられる時の喜びに生きがいを感じています。

しかし、ボランティア活動は平坦な道ではないようです。

病院ボランティアとは一体何をしたらよいか？ 病院に手伝いに入った婦人たちは、総合病院の大きな機構の中で悩みを持ちはじめました。

横浜市の明神台団地の婦人学級は、大変活発なことで評判です。それというのもその中心となっている佐藤さんが、団地の主婦たちの学習意欲をたくみにつかみ団地の中に婦人学級をつくり、その世話をみてきたからです。今は実践を考えて老人問題にとりくみ始めました。

佐藤さんの指導で、学級の中には新しいリーダーも生まれて来しました。ボランティアとは社会奉仕だけにとどまらないのです。

志村さんのあづま会という婦人学級は、子供の教育についてしゃべりたいことをしゃべりあう会を作ったのが始まりでした。今日は、学級が世話になった大学の先生と住みなれた町に埋もれている人間の歴史を知る勉強です。

お寺の経営から台所仕事と、忙しい最中を、志村さんが新しい婦人学級の世話にとび廻れるのもこの数年の間に培われたボランティア精神が支えになっているからでしょう。

この神大寺婦人学級は込宮さんたちが今までの婦人会に飽き足らず、勉強し行動する学級を自分たちの手で作ったのが始まりですが、神大寺の婦人学級は何分年寄りが多いので、若い志村さんをまわいて、学級の新しい学習方法なども勉強しはじめました。この婦人学級が地域作りに目を向けはじめたのも、志村さんや込宮さんの成果です。

これからは人間性回復の時代だといわれます。私たち婦人は、お互いが豊かな人間性を持ち、ふれあい、自分自身にできることから、ボランティア精神を培って行き、少しでも、世の中のできあわせに手を貸して行く事が必要ではないでしょうか。

■ この映画の利用方法

学級講座の中で……家庭教育学級、婦人学級、若妻学級などの継続学習の中で、「社会奉仕とは」「生きがいとは」などの課題学習にとりあける。婦人奉仕活動家庭教育講座にあっては必見の教材映画

サークル・団体活動の中で……PTAの学級・学年集会、婦人団体、自主グループ、町会、自治会、奉仕活動を主たる目的として活動しているサークル、団体などの各種集会に於て、社会奉仕について改めて考え直してみるにも好適な教材映画

指導者研修会の中で……子ども会指導者、育成者、PTA

委員、役員、その他婦人団体、青年団体、サークル等のリーダー養成の機会に欠かせない教材映画

■ 話し合い学習のポイント

この映画は、これから奉仕活動を手がけようとする婦人を対象に、奉仕活動とは何か、身近な事例をあげてわかりやすく描いています。すでに奉仕活動に挺身されている方々にも、見直すべき視点をなげかけ、更に奉仕活動のあり方を正しく把握するために役立てることができると。この映画の上映にあたって、事前事後の話し合いのポイントをあげてみよう。

1. 婦人の余暇時間が増大していると言われるが、その実態はどうか。

ごく一般的な傾向を調べてみると、昭和45年NHK国民生活時間調査によれば、余暇時間＝〔個人的交際〕＋〔くつろぎ〕＋〔趣味・娯楽〕＋〔新聞・本〕＋〔ラジオ・テレビ〕と規定して、全国の家庭婦人の平均値は4時間12分と算出している。

2. その余暇時間をどのように過ごしているか。

テレビ、おけいこごと、知識や教養を高めるために生かしている他に、現にボランティア活動にその時間をあてている人の実践例やその動機などについて発表してもらおう。

3. ボランティア活動とは何か、どのような活動が想定できるか。ボランティアとは要約すると

- 自分の自由意志により、自ら選択した活動であること
- 報酬を得ることを目的としないもの
- その活動は公共性、ないし社会性をになっていることとなる。

また一般にボランティア活動といっても、その種類、分野、参加方法は非常に多岐多様に及んでいる。子ども会育成、点訳奉仕など、地域社会や社会福祉の問題を痛感し、その解決のためにボランティア活動に参加している人、団体やサークルの世話役として活躍する人など、その活動領域はまことに広いことに気づかせる。

4. この映画に紹介されたボランティア活動について考察してみる。

それぞれの参加の動機について考え、更にそれぞれの活動内容を分析してみると

- あわれみの気持から奉仕活動に入っていく場合
- 人間の生きがいとして奉仕活動をとらえる場合
- 社会的な連帯感に支えられて奉仕活動に入っていく場合となるが、あわれみ→個人的生きがい→社会的連帯といった形で、この活動は更に深化していくことがいかに重要であるかを理解させる。

5. 社会教育の面から奉仕活動はどう見直していったらよいか考えてみる。

従来ややもすると、奉仕活動といえば福祉行政の補完的な役割を果たすものとして考えられてきたが、これを社会教育の一環としてどうとり組んでいったらよいか。

社会から受けた恩恵を社会に還元するために、今、私は何ができるか、そのために何をどのように学ぶべきか、など、ボランティアのあるべき姿、その果たすべき役割について、映画の登場人物を中心に考えてみる。

6. 奉仕活動家に求められる資質とは何か考えてみよう。

ボランティアである自分自身がまず地域社会のよき一員であるとともに、対人関係がうまくいっている人でなければならないこと、

また、よきボランティアとして常にその資質向上につとめ、自己研修の機会や婦人奉仕活動家庭教育講座などに積極的に参加し、学習・演習・実習を通して巾の広い知見を修得することが大切であること、
自らが成長しつつあり、そしてそれに喜びを感じる人だけが、はじめて、ほかの人の成長を助け得るのであることを、改めて認識させる。

7. ボランティア活動をすすめていく上での今後の課題について話しあってみる。

映画の中の病院ボランティアにみられるように、ボランティア活動は平坦な道ではない。受入れ側の態勢が充分にできていなければやる気を喪失させる原因ともなりかねない。ではどのような諸条件について整備をはかったらよいのか、このような欠陥を克服していくためにはどうしたらよいのか。ボランティアの不足、その発掘と養成、自発的な活動への伸長など真剣に考えてみたい。何の方針もなく、助けを与えないで放任するところに、よいボランティアは生まれないことを、この映画は訴えている。

(企画委員・中野区社会教育主事 矢萩操筆)